

令和7年度 上田市立傍陽小学校 自己評価シート 最終報告

A：達成できた B：概ね達成できた C：達成までに努力が必要である D：達成までにさらなる努力が必要である。

評価方法 ア…教師自身による評価 イ…校長による評価 ウ…子どもの評価 エ…保護者からの評価 オ…学校関係者による評価

令和8年3月4日

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価							
ここに笑顔 ときどき挑戦 とどん響き合う 傍陽の子	○健やかな心と体…自他の命と人権を大切に伸びようとする子、体を動かし、遊び学んで生きぬく身体をつくる子			・コミュニケーションの基本とも言えるあいさつが、自然と出来るようになってきている。そのことが子どもたちにも自覚できている。何気ない言葉（おまえ、こいつ等）が出てしまうこともあるので、気を付けていきたい。スポーツテストの結果や普段の様子から、体力（持久力）のなさや体のぎこちなさを感じることもある。課題として考えていきたい。							
	○原体験の感動と語り…原体験にひたり楽しめる子 思い・考えを持ち、友と深める子 自ら判断して、表現する子			・地域の方を講師に招いての学習、地域に出かけていく活動、地域にまつわる活動は、昨年度より活発に行えたと感じている。さらに地域の良さを知り、積極的に地域に出かける機会を作っていけるといと思う。							
	○確かな学びと支えあい…思いやり、協力し合える子 個の学びの確立と学力の向上、共に伸びる喜びを感じる子			・今年度は人権同和教育に取り組んできた。元々温かい学校ではあるが、相手を思いやった行動がいろいろな場面で見られたように思う。が、新しい関係だからこそ遠慮ない言動もまだまだ見られる。ともに学び、ともに高まっていくと子どもたちを支えられるような授業をしていきたい。							
	今年度の重点目標			評価方法	成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
1	太陽のような コミュニケーション	ア	・自分からあいさつをするように心がけることができた。	○						・自分自身の言葉づかいにも気を使いたい。	
2	傍陽に遊び学んで思いをかたる	ア	・地域に出かける、地域の方に教わる、地域にかかわる学習をすることができた。	○						・来年度「そえひたんけん」がその後の活動に生きるよう、計画を立てていきたい。	
3	支えあう仲間 個と協働の学び	ア		○							
領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法	A	B	C	D			
学校教育	生徒指導・生活指導	挨拶・返事・感謝の言葉	教師自らが、子どもと関わりながら挨拶や返事、感謝の言葉を率先して伝え、子どもたちのコミュニケーション力が高まるように指導したか。	ア	・挨拶や感謝の言葉を率先して使うことを心がけた。 ・子どもたちから話しかけられたときは、温かく返事をしてから話せるようにしてきた。	○				・教師の何気ない言葉づかいを見直していく。 ・コミュニケーション力を高められるよう、挨拶・返事・感謝の言葉以外にも考えていく必要がある。	
		自分を大切に、共に伸びる喜び	子どもを「～さん」と呼び、思いや言葉をかけ、人権教育の視点に立って、認め合い支え合う人間関係を指導したか。	ア	・自身が心がけることで子どもたちにも位置づいてきた。 ・自分では「そうしたつもり」であっても、子どもたちの受け止めが異なる場合があった。	○				・学校生活のあらゆる場面で、言葉を交わす機会を大切にすること。 ・相手がどう捉えるのかを考えて、言葉を選びたい。 ・より意識的に行っていきたい。	
	学習活動	表現を通じた心の解放	思いや感じたことを言語化し、相手に伝える力を育むための指導を行ったか。	ア	・言語化し相手に伝える活動は意識してきたが、それが子どもたちの伝える力を育むことに繋がったか自信がない。 ・「伝えたい」と気持ちを持って取り組めるように考えた	○					・「伝えたい」と思える課題設定。 ・子どもの思いを引き出すような教師側のスキルを高めていく。 ・子どもたちに伝える力がついているかをどう検証するか考えていく。
		地域を舞台にした、地域教材の創造	地域に出かけ、地域を舞台にした教育活動を創造し、原体験にひたり、楽しむ中で感動や思いが得られる支援を行ってきたか。	ア	・川遊び、地域探検、高齢者との交流等、浸りこんで活動したり繰り返し活動したりする中で成長があった。 ・猛暑やクマ等の野生動物の出没があり、どうしても逃げ腰になってしまったところがあった。	○					・追求のスパイラルにつながるような問いを引き出す手立てを見出す。 ・振り返りをしっかりと行っているようにしたい。
		子どもの視点に立った授業改善	子どもが自ら課題をもって追究し、「できた」「わかった」と感じられるように、ねらい・めりはり・見とどけを意識した授業改善をしてきたか。	ア	・授業の最後は「できた」「わかった」と感じて追われるように心がけてきた。 ・時間内に予定したところまで到達できない事があった。 ・ねらいめりはり見届けの意識が甘かった。	○					・与えられた課題ではなく、自ら課題をもてるような授業を考える。 ・自らが追求したいと思える課題との合わせ方を研究していく。 ・子どもたちがどこまでならたどり着けようかという見通しと、それに対する具体的な手立てを持ちたい。
		考えを聞き、話し合い、深めることのできる授業	課題解決のため、考えを伝え合い、聞き合い、話し合うことを通して、自分の考えを深めていく指導を行ったか。	ア	・「困っている」を言いやすい雰囲気意識してきた。 ・話し合いを取り入れてはいるが、考えを深められたかは疑問が残る。 ・学びの深め合いというところが弱い。	○					・考えを深められる声かけの工夫。 ・友だちの言葉が解決の糸口になるような学習展開。 ・話し合う必要感をもって話し合える課題設定。
		異年齢での活動	さまざまな学習や活動の場面で、異年齢の子どもたちがいれ合い交流できるように工夫をしてきたか。	ア	・連学年での授業を積極的に行うことができた。 ・縦割り清掃やなかよし給食などで交流ができた。 ・ペア学級遊びをもっと取り入れてもよかった。	○					・今行っていることの継続。計画的・意識的に異年齢での交流を考える。 ・連学年での授業を引き続き考えていく。 ・「そえひたんけん」について綿密に計画を立てたい。
		子どもたちへの励ましや称賛	子どもたちの話に耳を傾け、頑張りを認めたり、励ましたりするように心がけてきたか。	ア	・よさや頑張りを言葉にして位置づけてきた。 ・結果ではなく過程に目を向けられるようにほめてきた。 ・受け止め方に個人差があった。	○					・「認めてくれない」と思っている児童には、より積極的にかかわる。 ・「その児童だけの良さ」をもっと伝えていきたい。 ・子どもたちの思いを捉えられるように工夫する。
	学校生活	楽しい学校づくり	子どもたちが楽しいと思える学級・学校づくりに努めてきたか。	ア	・一生懸命やること、気持ちよさや楽しさを感じられるように考えた。 ・不登校傾向のある児童にも心を配ってきた。	○					・「明日も来たい」と思える学習や活動の工夫。 ・不登校傾向のある児童にとっても安心できる学校・学級づくり ・子どもたちが自分たちで考える楽しさの追求
	学校運営	学校づくり	家庭との連携 地域と共に歩む学校づくり	子どもの成長を願うことを基盤に、保護者との連絡を密にし、共通理解をはかりながら教育活動の充実に努められたか。	ア	・保護者への連絡はためらわずにしておくことができたが、どうしてもネガティブなことが多くなりがちだった。 ・子どもの成長を確認し合うことができた。	○				・良い姿の共有。 ・家庭と学校の認識のずれが生じないようにし、協力していく。
情報発信			学校の願いや児童の活躍の様子等が伝わる情報が発信できたか。	ア	・お便りでは、できるだけ子どもたちの様子が分かるように具体的に書いたり写真を入れたりしてきた。 ・ホームページや学校だよりを活用することができた。	○				・より伝わる情報発信を心がけたい。 ・地域への発信をどのようにしていくか、工夫をしていきたい。 ・写真の活用、端的な表現を心がける。	
危機管理			常に学校環境を見直し、児童の安全・安心を確保しているか。教育公務員として非遵行為防止に努めているか。	ア	・多様な児童がいるので、安全面には気を配ってきた。 ・管理場所の管理や整理を心がけてきた。 ・非遵行為防止につとめてきた。	○					・児童の安全、安心の確保を確実にしていきたい。 ・研修を行いつつ、同僚性を高めることで非遵行為防止につなげたい。 ・野生動物への対応についても、マニュアルを整えていきたい。